

# PTA あきた

～未来を拓く子どもたちのために、今できること～

PTAあきた(1)



2023.3.1 No.147

【発 行】秋田県PTA連合会  
【事務局】秋田市山王中島町1番1号 秋田県生涯学習センター内  
TEL(018)864-8975 FAX(018)824-7935  
E-mail :info@pta-akita.com  
<http://www.pta-akita.com>



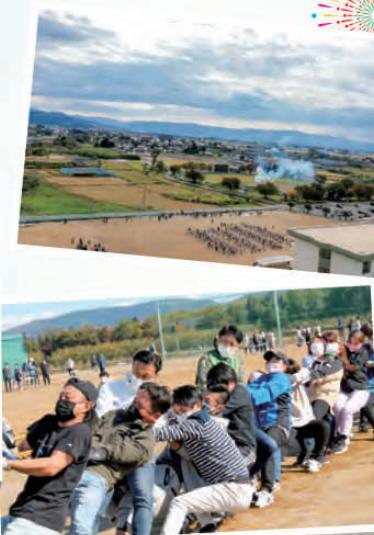
仙北市立  
神代小学校

親子プール清掃



横手市立  
十文字小学校

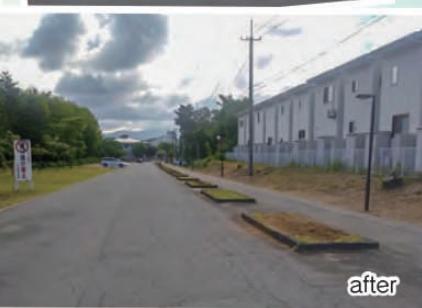
十文字小学校  
みんなの大運動会  
開校記念花火



潟上市立  
天王南中学校



PTAふれあい「環境整備活動」



# 第48回秋田県PTA研究大会 美郷大会

**大会主題「人と人とのつながりから 子どもたちの未来を拓く PTA活動」**

**開催日 令和4年10月30日(日)**

令和4年10月30日(日)美郷町公民館を会場に「第48回秋田県PTA研究大会美郷大会」が3年ぶりに対面開催で行われました。

コロナ禍により規模の縮小、参加人数の制限をさせていただきましたが、当日は感染対策をしっかりと講じた中で開会・閉会行事、記念講演Ⅰ・Ⅱを行いました。

記念講演Ⅰでは、秋田大学教育文化学部准教授 伊藤恵造様より「学校運動部活動の地域移行とその課題」と題し、学校運動部活動の地域移行の現状や今後の課題などについてご講演をいただきました。体罰根絶、子どもたちの部活動選びの現状や傾向、指導者のスキルや多忙化に伴う改革やそこから生まれる課題をふまえて段階的に持続可能な部活動と学校の働き方改革の両立を図るということを学びました。一方で保護者がどのようにかかわっていくのか考えるきっかけをいただきました。

記念講演Ⅱでは、親業訓練インストラクター 鈴木聰子様より「親業～子どもの対話力を高める3つのコツ」と題し、親子のコミュニケーションについてお話をいただきました。心の架け橋を築くための3つの柱として、子どもの自己解決力、親の気持ちの伝え方、子どもと親の相互理解による悩みの解決をあげ、子どもとの向き合い方を、実例を交えながらコミュニケーションを創造していくという学びがありました。

今年度は大会の様子や記念講演の動画を期間限定で配信させていただき、多くのPTA会員様からご視聴いただくことができました。

また、大会について、アンケートに多くのご感想をいただきました。貴重なご意見を次年度へつなげていきたいと思います。

たくさんのご参加、ご視聴いただきました皆様、ありがとうございました。



記念講演Ⅰ  
演題「学校運動部活動の  
地域移行とその課題」  
講師：伊藤 恵造 氏  
秋田大学教育文化学部 准教授



記念講演Ⅱ  
演題「親業～子どもの対話力を  
高める3つのコツ」  
講師：鈴木 聰子 氏  
親業訓練インストラクター

# 第70回日本PTA 全国研究大会

## 第54回日本PTA東北ブロック研究大会 山形大会


**大会主題**

「人とひとのつながりを体感しよう！」～あがらっしゃい精神の山形から～

**開催日**

令和4年8月26日（金）分科会 27日（土）全体会

令和4年8月26日（金）、27日（土）山形県内を会場に第70回日本PTA全国研究大会 第54回日本PTA東北ブロック研究大会 山形大会が行われました。コロナ禍の状況ではありましたが、3年ぶりに通常開催で行われ、全体会は山形市のメイン会場の他に酒田市にサテライト会場を設け多くのPTA会員様にご参加いただきました。

来年度の全国大会は広島県、東北大会は宮城県が会場になります。皆様のご参加をお待ちしております。



### 前を向いて歩んでいく

第3分科会 パネリスト 佐々木 晓

第70回日本PTA全国研究大会山形大会の第3分科会にパネリストとして、参加させて頂きました。事前打合せでは、コーディネーターを務める齋藤様のご配慮によりスムーズに会が進行されるようお気遣いを頂き大変感謝しております。また、会場では、PTA関係者の皆様が早朝から準備に精を出しており、大変有難く感じると共に、こういった方々の頑張りにより70回も継続する全国研究大会が支えられているものと感じました。

パネリストという貴重な経験をさせて頂くなかで、改めてPTAという組織の意義やこれからの方々など、考えさせられる大変良い機会になったものと思っています。また、新型コロナウィルスにより時代は大きく変化し、学校教育においても活動制限を余儀なくされました。しかし、嘆いても何も始まりません。こんな時だからこそ、この状況で何ができるのか、子供達にとって最善の教育とは何であるのか、考えるべきだと思っています。

新型コロナウィルスが出現してから約3年が経過しようとしています。窮屈なこと増えました。しかし、悪いことだけではないと思いますし、この経験を今後に活かすことが大切だと感じています。この状況のなかで子供達に質の高い教育を提供するにはどうしたらいいのか、学校側だけに任せのではなく、学校側とPTA側が両輪となって子供達を支え、前を向いて歩んでいくことが大切だと思います。また、これを契機に前例踏襲の見直しなど、変革することも考えていかなければならぬと思います。そして、子供達に希望を与えるのは大人の責任であることを念頭に入れ、この全国研究大会の参加を起点として希望溢れる未来に向かって微力ながら活動していきたいと思っています。

この度は大変貴重な気づきの機会を頂いた、秋田県PTA連合会の皆様、第70回日本PTA全国研究大会山形大会の関係各位の皆様に心からの感謝を申し上げます。

### 第70回日P山形大会に行ってきました

秋田県PTA連合会 幹事 佐 藤 宏 喜

令和4年8月26・27日に山形県で開催された第70回全国研究大会に、秋田市からアクセスの良い酒田市にて参加してまいりました。流行り病により第68回富山大会は完全中止、第69回北九州大会はオンライン開催となつたため、実に3年ぶりのリアル開催がありました。

【人とひとのつながりを体験しよう！～あがらっしゃい精神の山形から～】がスローガンの本大会。初日の第二分科会は【地域とつながる学校教育～子供たちの未来のために学校とPTAが共にできること～】をテーマに東京学芸大学大学院特任教授の永田繁雄氏からご講演を、二日目の全体会は【「一本のタクト」は、人のこころを豊かに幸せにするアイテム ライブでしか味わえないお話を演奏をあなたに…】とのタイトルで、世界的オーケストラ指揮者の飯森範親氏からご講演とオーケストラによる演奏を聴かせていただきました。主催者発表の来場者数は約8,000名。全体会のサテライト会場であった酒田市の希望ホールも、立ち見が出るほど盛況ぶりでした。

個人的には、我が家の中三の末っ子が病気のため二年ほど通常の登校ができていないこともあり、家庭での子どもへの接し方や住み暮らす地域における人ととのつながりについて非常に多くの学びを得る機会となりました。

殊に少子化の深刻な秋田では、隣近所から子どもたちの声がめっきり減り、さらにはコロナ禍の影響もあって、我々保護者同士の交流の場が失われていく一方です。思うに、このようなご時世だからこそ、今や世間的にマイノリティとさえ言える「子育て世帯」がお互いに抱える悩みを語り合い情報を共有するコミュニティとして、また、解決すべき課題を世間に訴える手段として、PTAの存在意義がいま一度見直されるべきではないでしょうか。PTA研究大会は、こうしたリアルタイムの諸問題に向き合いながら、各ご家庭での子育てのスタンスも見つめ直す絶好の機会です。次年度以降、お時間を取れる方はぜひ積極的にご参加いただき、新たな情報発信につなげていただきますようお願いいたします。

# 教育 懇談会

## 【不登校について】

新聞報道等によると、県内の不登校児童生徒数が過去最高になり、年々増加傾向にあると伺っております。新型コロナウイルス感染症の影響で学級閉鎖や学校行事の規模縮小、行動制限が行われ、子どもたちが自宅で過ごす時間がが多くなり、生活リズムが乱れがちになっている子どももいるように思います。そこで、県内の不登校児童生徒数の状況（人数やその要因）、さらには県教育委員会として不登校児童生徒数の減少に向けて、どのような対策に取り組んでいるのかについて、教えてください。

## 〈回答〉

文部科学省が実施した「令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によると、本県の公立小・中学校の不登校児童生徒数は、小学校が365人、中学校が959人、合計1,324人で、令和2年度よりも269人増加している。校種別では、小学校が87人、中学校は182人の増加であった。1,000人当たりの不登校児童生徒数（国公私立小・中学校）で見ると、小学校が9.4人（全国13.0人）、中学校が44.2人（全国50.0人）、平均22.0人（全国25.7人）であり、小・中平均では47都道府県中、少ない方から数えて9番目という状況であった。

不登校児童生徒数が増加している要因として、新型コロナウイルス感染症の影響により、生活リズムが乱れやすい状況があったり、学校生活において様々な制限がある中で交友関係を築くことなど、登校する意欲が湧きにくい状況があつたりしたことなどが考えられる。

県教育委員会では、不登校等の未然防止、早期発見、早期解決に向けて四つの事業を展開し、教育相談体制の充実を図っている。

### ①スクールカウンセラー等配置事業

※中学校スクールカウンセラー、広域カウンセラー、緊急支援カウンセラーの配置

### ②スクールソーシャルワーカー活用事業

※福祉事務所や児童相談所等の関係機関につなぎ、解決に向けて支援

### ③SNS・電話相談事業

※SNSを活用したLINE相談、フリーダイヤルの電話相談

### ④小学校生徒指導研修実施事業

※小学校生徒指導主事等・スクールカウンセラーを対象とした研究協議会の開催

上記の他にも、県や市町村教育委員会が設置している教育支援センター（適応指導教室）や民間の施設（フリースクール）の関係者と連携した協議会等を開催するなどして、不登校児童生徒への対応等の改善に努めている。

今後も、日常の観察や教育相談体制の充実等により、実態をきめ細かに把握し、個々の児童生徒の状況に応じた適切な指導・支援に努めてまいりたい。

#### （回答者）

義務教育課 指導班 副主幹（兼）班長 珍田 良浩

令和5年1月24日（火）、秋田県教育委員会 安田浩幸教育長をはじめ、中田善英生涯学習課長のほか関係各課職員の方々から御出席いただき「令和4年度教育懇談会」を開催いたしました。質問事項には、各課より丁寧に御説明をいただき、活発な意見交換が行われました。その概要を報告します。

## 【インターネットの利用について】

ネット社会の急速な発達に伴い、各学校ではPTAの際に情報モラル教室等に取り組み、保護者としても研修を深めているところです。これからのお子さんたちには、インターネットを効果的に活用する力が求められていると思います。そこで、子どもたちのインターネット利用状況やインターネットを健全利用するためのポイントについて教えてください。また、家庭でのルールづくりや県教育委員会として取り組んでいることについて、教えてください。

## 〈回答〉

私たちを取り巻くインターネット環境は日々変化しており、子どもたちのインターネットの利用が急速に拡大している一方、その利用は様々な危険と隣り合わせとなっている。

県教育庁義務教育課で行っている「令和4年度スマートフォン等、インターネット利用実態調査」の集計結果によると、スマートフォンの所持率は、中学校への進学のタイミングで急激に増加し、小学6年生よりも28.3%増加している。また、ネットトラブルの低年齢化が進んできており、ネットトラブルや被害に遭っても誰にも相談していないと回答している児童生徒も増加傾向にある。

ネットトラブルや被害に遭った際には、信頼できる身近な大人への早めの相談が大切になる。家庭でのルールづくりについては、子どもとしっかり話し合い、子どもが理解し、納得する内容になるとともに、発達段階に応じて、ルールをアップデートしていくことが必要になる。保護者が寄り添い、見守るとともに、インターネットの利用に関する現状を正しく知り、気になることがあれば一緒に考えることを心掛けていただきたい。

また、子どもたちがネットトラブルの被害者や加害者にならないために大切なこととして、子どもたち自身が情報モラルを身に付けることが必要になる。そこで、県教育庁生涯学習課では、学校における情報モラル教育を支援するために、リーフレット「インターネットを安全に使うために知っておくべき四つのポイント」を作成し、学校の教育活動やPTAの研修等での基礎資料として活用できるよう支援している。さらに、県内児童生徒のインターネット上の利用行動を把握し、不適切な投稿を検知した際には、その投稿の削除を支援したり、投稿に対する相談を受けたりする「ネットパトロール」を実施している。

県教育委員会としては、児童生徒のインターネットの健全な利用について指導・啓発を継続していきたいと考えている。各学校や各家庭においても、引き続き指導や見守りをお願いしたい。

#### （回答者）

生涯学習課 社会教育・読書推進班 副主幹（兼）読書活動指導監 阿部 光教



## 【ICT教育の進捗と活字離れについて】

GIGAスクール構想により、学校では子どもたちに1人1台端末が配付され、授業等で効果的に活用されていることだと思います。県教育委員会としては、ICT教育の推進に向けてどのような取組を行っているのか、さらにはPTAとして協力できることについて教えてください。また、ICT教育が進む一方、子どもたちの活字離れも進んでいるように思います。活字離れの現状やそれに対する県教育委員会として取り組んでいること、さらにはPTAとして協力できることについて教えてください。

### 〈回答〉

令和3年度から「ICTを活用した秋田の教育力向上事業」に取り組んでいる。その一環として、県内の小・中学校6校をモデル校に指定し、ICTを活用した授業改善に向けた実践的調査研究を行い、効果的な学習方法や指導方法を明らかにするとともに、その成果の普及を図ることを目的とした補助事業を展開している。

令和5年1月11日（水）には、本県におけるICT活用の取組等を県内外に情報発信する「オンライン・ミーティング」を開催した。本事業の成果と課題についてパネル・ディスカッションを通して検証するとともに、有識者による講演においては、今後のICT活用の推進について御提言をいただいたところである。県内外から約800名の参加を得て、成功裏に終えることができた。

本事業は次年度も継続する予定である。ICT活用を推進することで、これまで本県学校教育が積み上げてきた「秋田の探究型授業」の更なる充実を図っていきたいと考えている。

国では、ICT端末をいつでもどこでも利活用できるよう、日々の持ち帰りを推奨している。本県の現状として、持ち帰りが進んでいるとは言い難いが、今後ICT活用の推進により、持ち帰りの割合は高まるものと考えている。

持ち帰りが進むことで、ICT端末が学校・子ども・家庭をつなぐツールとして、家庭学習での利活用も含め、学び方の新たな可能性を広げてくれるものと大いに期待している。その一方で、児童生徒の健康面への配慮や情報モラル教育の一層の充実が求められる。このことについては、学校だけで完結できるものではないため、PTAを始め関係機関・団体との連携が必要不可欠である。今後とも御理解と御協力を賜りたい。

### （回答者）

義務教育課 学力向上推進班 副主幹（兼）班長 高橋 浩

近年、生活環境の変化や様々なメディアの発達・普及などを背景として、子どもたちの「活字離れ」「読書離れ」が指摘されている。令和4年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査の結果によると、「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか？」の質問項目に「全くしない」と回答した児童生徒は、本県の小学6年生で20.9%、中学3年生で26.1%となっており、また「新聞を読んでいますか？」の質問項目に「全く読まない」と回答した児童生徒は、本県の小学6年生で59.4%、中学3年生で65.4%となっており、年々増加傾向にある。

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものである。子どもたちの読書習慣を形成するためには、家庭等と連携を図るとともに、学校図書館がその機能を發揮していくことが求められている。

そこで、県教育庁生涯学習課では、国や県、各市町村の子ども読書活動推進計画に基づき「学校図書館活性化支援」学校訪問を実施している。学校訪問の際には、各校の実態に合わせ、学校図書館の利活用や読書活動の推進について協議し、指導及び助言を行っている。

また、子どもの読書習慣は日常の生活を通じて形成されるものであり、読書が生活の中に位置付けられ、継続して行われるよう、身近な存在である保護者が子どもの読書活動の機会の充実や習慣化に積極的な役割を果たしていくことが大切であると考える。家庭においては、読み聞かせをしたり、子どもと一緒に本を読んだり、図書館に出向いたりするなど、子どもが読書に親しむきっかけをつくっていただきたい。

県では、全国に先駆けて「読書条例」を施行し、読書活動を通じて県民が心豊かな人生を送り、文化的で豊かな社会を構築していくことを目指し、県民運動として読書活動推進に取り組んでいる。各学校や各家庭においても、引き続き読書活動の推進に向けて御協力をお願いしたい。

### （回答者）

生涯学習課 社会教育・読書推進班 副主幹（兼）読書活動指導監 阿部 光教

## 【部活動の地域移行について】

部活動の地域移行については保護者としても関心が高く、令和4年度秋田県PTA研究大会美郷大会においては、秋田大学の伊藤恵造准教授から「学校運動部活動の地域移行とその課題」という演題でお話を伺い、研修を深めたところです。そこで、文化部の地域移行については、どのような方向で進んでいるのでしょうか。現段階での方向性について教えてください。また、運動部活動の地域移行についても、新しい動きや今後の方向性について、改めて詳しく教えてください。

### 〈回答〉

文化部活動の地域移行について、その方向性は運動部活動と変わらない。令和5年度から地域の実情等に応じて、まずは休日の文化部活動から段階的に地域移行していくことが基本となる。

令和4年12月に、教育庁内の関係課、秋田県芸術文化協会、秋田県吹奏楽連盟、秋田県合唱連盟の関係者による「文化部活動地域移行に係る連絡会」を開催し、国の動向や本県での先進的な事例、各協会・連盟の状況等について情報交換及び協議を行っている。部活動の地域移行は、学校教育のみならず、活力ある地域社会を創造していくための大改革である。子どもたちの成長を第一義として進めていきたい。

### （回答者）

義務教育課 指導班 副主幹（兼）班長 珍田 良浩

国は、当初示していた令和5年度から令和7年度までの「改革集中期間」を「改革推進期間」に改めた。これは、各自治体から「3年間での達成は現実的に厳しい」という意見等が多く寄せられたため、地域の実情に応じて、より柔軟に対応できるようにしたものである。

本県では、令和5年1月26日（木）に有識者や受け皿となり得る団体の代表者を含めた「秋田県地域運動部活動推進事業第1回連絡協議会」を開催し、県推進計画の策定や県としての各市町村や地域に対する支援の在り方について協議を行う予定である。

### （回答者）

保健体育課 学校体育・部活動班 副主幹（兼）班長 野中 仁史



# 優良PTA文部科学大臣表彰 学校紹介

## 地域と共にある学校

湯沢市立山田小学校PTA会長 佐藤 愛子



この度、私ども山田小学校PTAは優良PTAとして表彰していただきました。歴代のPTA会長をはじめ、PTA会員の皆様、地域の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

本校のPTA活動を紹介します。校外指導部は、地域のボランティア団体である「山田っ子安全隊」の協力のもと、交通安全街頭指導や「あんあん（安全・安心）セミナー」を実施し、子どもたちの安心・安全に努めています。特に「あんあんセミナー」は、交通安全教室や防犯教室（不審者対応やSNSの正しい利用の仕方など）を通じ、子どもたちだけではなく、保護者も共に学ぶ場となっています。また、地域の危険個所を確認し、学校に伝えたり子どもたちに注意を喚起したりすることも重要な活動です。

保健体育部は、主に子どもたちの体育的活動を支援しています。春の運動会や地域の住民運動会への協力、冬はスキー教室での指導補助やリフト補助、児童のスキー運搬などを行っています。

文化部は、山田小学校の立地している地域名にちなんだPTA会報「どじょっぱら」を発行し、会員の皆さんの交流の場づくりに努めています。会員の直筆の原稿をそのまま編集し、昔ながらの温かみのある手書きの会報であることが特徴だと思います。

他にも、子どもたちの学習活動に対する支援にも力を入れています。地域の営農企業の協力のもと実施している米作り体験や、学校林での林業体験などは、自然に囲まれた山田小学校ならではの活動と言えると思います。併せて、PTAのOBともいべき地域ボランティアの皆さんも頻繁に学校に足を運んでくださり、図書室の整備や季節に合わせた校内装飾をしてくださったり、高学年の家庭科のミシン指導をしてくださったりしています。

少子化問題は本校でも例外ではなく、年々児童数は減る一方ですが、「地域と共にある学校」を目指し、地域の方々と手を携えPTA活動を進めていきたいと思います。地域がPTAが、そして何より子どもたちが、「おらほの学校」と胸を張って呼べるような学校づくりの支援ができるよう、PTA会員一同力を合わせていきたいと思います。

## 令和4年度表彰一覧

### 優良PTA文部科学大臣表彰

- ・湯沢市立山田小学校PTA
- ・井川町立井川義務教育学校PTA

### 日本PTA全国協議会会長表彰

- |      |                      |
|------|----------------------|
| (団体) | ・北秋田市立阿仁合小学校PTA      |
| (個人) | ・山本智加子 秋田県PTA連合会 副会長 |
|      | ・菅生 清子 秋田県PTA連合会 副会長 |
|      | ・森元 大 秋田県PTA連合会 副会長  |

### 東北ブロックPTA協議会会長感謝状・表彰状受賞者

- |        |                                                                                                                                                                                |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【団体表彰】 | ・秋田市立中通小学校PTA<br>・秋田市立御所野学院中学校PTA<br>・にかほ市立平沢小学校PTA<br>・湯沢市立山田中学校PTA                                                                                                           |
| 【個人表彰】 | ・高谷 秀和 鹿角市立花輪中学校PTA 前会長<br>・近藤利津子 大館・北秋田PTA連合会 前会長<br>・金子 育民 濁上市立東湖小学校PTA 前会長<br>・佐藤 宏喜 秋田市PTA連合会 事務局長<br>・久米川和行 大仙市PTA連合会 前会長<br>・森川 慎一 美郷町PTA連合会 前会長<br>・園部 勇人 横手市PTA連合会 前会長 |

## 地域とともに子どもを見守り育てる学校

井川町立井川義務教育学校PTA会長 伊藤 将俊



この度、私ども井川義務教育学校PTAは優良PTA文部科学大臣表彰を受賞させていただきました。

今回の受賞は、井川小学校、井川中学校のときから続く歴代のPTA会員の皆様と、地域の方々とが、長い年月をかけ築き上げ、受け継いできた活動を評価していただいたものだと思っております。ご協力くださった歴代のPTA会員、地域の皆様に深く感謝申し上げます。

本校のPTAは執行部と四つの専門部で構成されています。生活安全部では、井川さくら少年サポートチームや民生児童委員、町教育委員会と協力し、登下校の見守り活動や安全指導、挨拶運動を、年間を通じて行っています。また、長期休業前には各町内子ども会会长が地域の危険箇所等の情報を提供することで、地域と学校が共通理解を図りながら、安全指導につなげています。

保健環境部では、全校児童生徒と保護者に参加を呼び掛け、親子早朝奉仕活動を行っています。親子そして異学年の児童生徒が関わり合いながらの活動を通して、PTA会員同士の交流を深めるとともに、よりよい教育環境づくりを進めています。

総務広報部ではPTA文集を発行しています。児童生徒会誌との合本という形でのPTA文集は、一年生から九年生までの一人一人の作品や、六、九年生のPTA会員の皆様の声が掲載された温かみのある文集です。

文化研修部では毎年、PTA会員を対象とした研修会を企画しています。そしてPTA会員は研修の成果を子どもたちに還元できるよう努めています。

井川義務教育学校が開校し、今年で五年目を迎えました。井川町にある唯一の学校です。地域とともに子どもを見守り育てる学校を目指して、PTA会員同士のつながりを大切にし、そして地域の方々との関わりを深めながら、子どもたちにとってよりよい環境をつくりたいと考えています。

PTA会員一同、力を合わせて尽力して参りますので、今後ともご支援ご協力をよろしくお願いします。



### 秋田県三行詩コンクール入賞者

#### 【小学生の部】

- |              |              |
|--------------|--------------|
| ・秋田市立東小学校    | 1年 渡 部 聖 奈   |
| ・由利本荘市立由利小学校 | 3年 木 村 朔 大 朗 |
| ・由利本荘市立由利小学校 | 6年 小 沼 球 翔   |
| ・由利本荘市立由利小学校 | 6年 尾留川 太 一   |
| ・仙北市立白岩小学校   | 6年 高 橋 篤 美   |

#### 【中学生の部】

- |              |            |
|--------------|------------|
| ・由利本荘市立西目中学校 | 3年 熊 谷 沙 羅 |
| ・大館市立東中学校    | 2年 菅 原 弘 悠 |
| ・大仙市立大曲中学校   | 1年 田 中 雅 実 |
| ・大仙市立大曲中学校   | 2年 村 上 友 真 |
| ・大仙市立大曲中学校   | 3年 富 樞 拓 真 |

#### 【一般の部】

- |                |         |
|----------------|---------|
| ・秋田市立東小学校PTA   | 草 茂 奈々江 |
| ・大館市立城南小学校PTA  | 柳 沢 明 子 |
| ・大仙市立太田東小学校PTA | 佐々木 めぐみ |
| ・横手市立横手南小学校PTA | 田 中 奈津子 |
| ・横手市立横手南小学校PTA | 中 嶋 美 幸 |

#### 【団体特別賞】

- |              |
|--------------|
| ・由利本荘市立由利小学校 |
| ・由利本荘市立西目中学校 |

# 都市 PTA だより



## かづの

### ●コロナ禍でも実践できた取組

今年度もコロナ禍ではありました。その中からいくつか紹介します。一つ目は、母親委員会で行った「防災キャンプ体験講座」です。大館少年自然の家の職員の方を講師に新聞紙でお皿やスリッパを作ったり、ビニール袋で炊飯してカレーを味わったりしました。親子での参加が多く、楽しみながら学ぶことがで

きました。二つ目は単位PTA会長・副会長・母親委員合同会議で「chrome book研修会」を行ったことです。学校にICT環境が整い、児童生徒が活用しているタブレットを実際に体験してみようという研修でした。その便利さを実感しましたが、便利さ故の怖さも見え、会員の皆様からは有意義な研修だったという感想を多くもらいました。コロナ禍ではありますが、今後も研修内容を工夫して取組を充実させていきたいと思います。



## 大館・北秋田

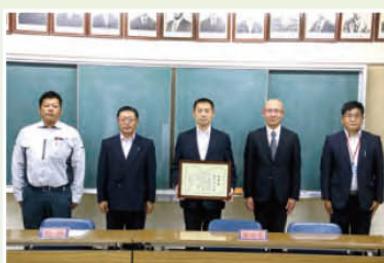
### ●今年度活動報告

大館・北秋田PTA連合会研修会及び表彰式は、コロナ禍の影響で開催を見送りました。一度の理事会では開催の有無を決定することができず、二度の理事会をもち、話し合いを重ねました。最終的にはやむを得ず中止を決定しましたが、今回の話し合いを通して得られた内容が、次年度の開催につながっていくものと考えます。PTA活動にご

尽力いただいた方々の表彰は、各校でPTA全体会などの場で行っていただきました。また、受賞代表者1名の方には、会長はじめ副会長、事務局が学校を訪問させていただき、規模を縮小した表彰式を行わせていただきました。

厳しい状況下でしたが、市P連合会、また各小・中学校単位PTAにおいては、規模や感染状況に合わせて工夫した活動が行われていたようです。来年度に向けて、各連合会や単位PTAと連

携し、研修会を初めとした通常の活動を目指していきたいと思います。



## 能代市山本郡

### ●つなげよう！子ども達に明るい未来を！

「今年こそ！」と意気込んだものの、コロナの猛威には打ち勝てず、昨年に引き続き本連合会としての活動は中止となりました。メイン行事実施可否アンケートでは、「感染対策をしっかりと行った上で実施したい」という前向きな意見もありましたが、それも叶わず残念ながら実施を断念いたしました。

そんな中でも「今、できること」と、

各学校単位PTAでは、感染対策を講じた上で、様々な活動が実施されておりました。小学校の親子レクでは、地域の方々の協力のもと、特色ある行事を体験できたようです。また、能代市では、中学生ふるさと会議が3年ぶりに開催され、子ども達のふるさとを思う活気ある提言に希望の光を再確認することができました。

来年度は、県PTA研究大会能代市山本郡大会が開催されます。開催地と

して、能代市山本郡PTA連合会会員一同で準備を進めてまいります。



## 潟上市・南秋田市郡

### ●子どもたちの健やかな成長のために

今年度も、コロナ禍の影響により、郡市PTA連合会の定期総会は、書面での開催となりました。PTA会長会議は、2回実施することができました。

1回目の会長会議で、「潟・南P研修会」について話し合いました。「ラボーラー中谷さんのマジックショー」を計画し、会場や費用等全て決定し、開催案内を配付するだけというところまでき

ておりました。しかし、新型コロナウイルス感染の波が押し寄せたため、研修会の中止という苦渋の決断をしました。

このような厳しい状況ではありましたが、各小・中学校単位PTAにおいては、工夫を凝らして活動が行われていました。児童生徒の安全を守るために登下校時の見守りやバトロールを行ったり、町や村単位で組織されているPTA連合会で合同の研修会を実施したり、周年行事に合わせて活動したり…。

今後も、子どもたちの健やかな成長のために創意工夫しながらPTA活動を充実させたいと思います。



## 男鹿市

### ●地域との連携をとおして

今年度も、これまで行ってきた事業のほとんどが新型コロナウイルス感染とその拡大防止のため中止となっていました。PTA研修会、校長・教頭・PTA正副会長懇談会、親善ソフトバレーボール大会に替わる親睦レクリエーション大会など、会員が相互に親睦を深められる有意義な事業が、この3年間全くできず大変残念に思います。

そのような中で、今年度新たに、男鹿市子ども家庭地域連携推進事業の「家庭教育支援チーム」とタイアップし、制服・体育着のリユース活動に協力しました。それぞれの単位PTA保護者や地域の方々に声をかけ、資源の有効活用や、家計のサポートとして効果的な活動となりました。今後もさらに協力体制を強化して活動に協力していきたいと思います。令和5年度以降もさらに学校統合が進み、連合会運営がま

すます厳しいものになってくことが予想され、今後の大きな課題となっています。



## 秋田市

### ●雨ニモマケズ 風ニモマケズ コロナニモマケズ

コロナ禍の影響がまだまだ続いているですが、事業についてはいくつか対面で開催するなど少しづつ活動を広げていくことができました。

親子学習会「図書館の裏側探検」、「～正しく歩いて気持ちも前向きに～美ウォーキング講座」を開催。特に親子学習会は大人気で抽選倍率11.4倍となり驚きを隠せませんでした。

「秋田市教育委員会と秋田市PTA連

合会との教育懇談会」では、秋田市教育委員会に対する当会からの質問・要望にお答えいただいた他、「教育の情報化について」「部活動の地域移行について」報告がありました。いずれも質疑応答が活発に行われ、対面開催ならではの充実した懇談会を行うことができました。

一方、研修会についてはオンライン配信を継続し、「会報の作り方研修会」、会員研修会「親子のコミュニケーション思春期編」の2つ

を配信しました。

今後も、その時その時の状況に合わせ工夫しながら活動していきたいと考えています。



## 由利本荘市

### ●2年ぶりの教育懇談会

11月25日に秋山正毅教育長をはじめ由利本荘市教育委員会から教育総務課長、生涯学習課長、学校教育課長を来賓に迎え、由利本荘市PTA教育懇談会を2年ぶりに参考集型で行いました。各中学校地区から出された教育条件整備等に関する要望書への回答説明を受けて質疑応答しました。秋山教育長からは「本市学校教育の現状とこれから」として①6年後の児童生徒数か

ら見る本市の状況②施策案③スポーツ活動と部活動の今後④生涯学習と放課後

学習⑤本市におけるICT教育などの5点について講話いただきました。講話の内容を受けて近席の方同士で情報交換しました。ちょっとしたグループミーティングのようで参加者の表情が和らぎ、地域の教育状況の具体的な質問や意見につながりました。

リアル、アナログ、デジタルをミックスさせて、今後もよりよいP

TA活動の在り方を求めていきたいと思います。



## にかほ市

### ●子どもたちの成長のために

昨年はコロナにより活動が中止となりましたが、今年度は教育懇談会の『あきた県庁出前講座「サイバー犯罪から身を守る」』の講演、象潟小学校で行われた北都銀行バトミントン部監督による講演会などの活動を再開させることができました。

なかでも印象に残っているのが、北都銀行バトミントン部の佐々木翔監督に「競技を通して人間形成につなげる

ために」と題して、象潟小5,6年生とにかくほ市内小中学校の保護者を対象にご講演をいただいたことです。この数年このような機会が奪われ、子どもたちの成長のためにPTAとして何かできないものかと模索しておりましたので、一部制限はありましたが実現できたことを本当に嬉しく思っております。ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

いまだコロナの終息は見えませ

んが、これからも各学校の皆様にご協力をいただき、子どもたちの成長につながるような活動ができたらと考えています。



## 大仙市

### ●人と人とのつながりから子どもたちの未来を拓くPTA活動

今年度は総会の開催や県研究大会への参会など、久々に対面で意見交換する機会が増えました。県の研究大会の冒頭で「三行詩コンクール表彰」がありました。本市から中学生3名、一般1名が入賞しました。詩で表現された微笑ましい様子に、あらためて家庭での「つながり」の大切さに気付かされました。また、2月2日には市内小中学校、園の代表者を対象に研修会を実施する予定です。研修内容は「子どものSNSの使い方に対する保護者の関わり方」で、講演と事例検討会を計画しています。昨今、いじめや不登校等にSNSが関わっていることが多數

報告されています。この問題に対して、保護者として、またPTA組織として、どのように関わっていけばいいのかを模索する機会になればと思っています。今後も、保護者同士の「つながり」が子どもの未来を拓くことができるような活動を続けていきたいと考えています。



## 仙北市

### ●3年ぶりに研修会を開催

過去2年間、開催を断念していた講師を招聘しての研修会を3年ぶりに開催することができました。1月22日、西木温泉ふれあいプラザクリオング在会場に行われた研修会にはPTA会員80名が参加。講師を務めた須田喬仙北市教育委員会教育長の「熱いトーク」に耳を傾けました。コロナ禍が続く中で、須田教育長が、PTA会員に自らの思いを直接伝えることが無かつたこともあり、今回の研修会は大変貴重な機会となりました。参加したPTA会員からは「教育長さんの熱い思いに感動した」、「子育てをする上の指針をいただいた」等の感想が聞かれました。3年ぶりの開催で、運営

にやや戸惑いもありましたが、PTA活動を再び活発にしていくための一歩を踏み出すことができたように思います。

なお、昨年度、一昨年度に実施した市内各学校への図書寄贈は、今年度も継続して行うことになりました。子どもたちの「活字離れ」を食い止める一助になれば幸いです。



## 美郷町

### ●第48回秋田県PTA研究大会 美郷大会 開催

10月30日、対面では3年ぶりとなる秋田県PTA研究大会を開催することができました。コロナ禍での開催ということで、できる限り感染リスクを減らし、その中で参加してくださる方々に有意義な場となるように、準備を進めました。

当日は、200人程の皆様にご参加いただき、「人と人とのつながりから子

どもたちの未来を拓くPTA活動」を大会主題とし、2つの記念講演（「学校運動部活動の地域移行とその課題」「親業～子どもの対話力を高める3つのコツ」）をご聴講いただきました。いずれも、現在子育てをしている保護者の方々からの要望で実現した講演でした。大会終了後には、ご参会の皆様からたくさんの感想をいただき、何よりの励みとなりました。コロナ禍のため、意見交換は叶いませんでしたが、一堂に会するこ

とで、「人と人とのつながり」の温かさを改めて感じることができました。本当にありがとうございました。



## 横手市

### ●会員が集つての研究集会

新型コロナウイルス感染症の影響により、ここ数年、中止となっていた横手市PTA連合会研究集会が、11月26日、横手市民会館を会場に3年ぶりに参集型で開催されました。当日は横手市内の小中学校から120名余りの会員の参加がありました。

講師に、北秋田市立合川中学校養護教諭、藤嶋浩子先生をお招きし、「子どもの根っこを育てるために大切にしてほしいこと」と題し、ご講演いただきました。子どもの成長を見守る時には、表に出るところだけでなく、外からは見えにくい心の思い（根っこ）を感じ取ることが大切であるというお話をありました。その

ために「愛情」「夢や希望」「失敗を恐れない」というキーワードが出され、子育てについて考える貴重な機会となりました。講演後、会員同士で意見交換をする姿が多く見られ、参集型で行うよさを改めて感じました。来年度も、是非この会が参集型で実施されることを願っています。



## 湯沢雄勝

今年度も、本連合会の活動は中止となりました。しかし、山形で行われた全国大会、美郷町で行われた県PTA研究大会と、大きな大会が現地参集型で開催されました。本連合会からも、少人数ではあります、参加して研修することができました。各会場での、大会を行うための熱い思いを感じとり、大きなエネルギーをいただきました。

さて、湯沢市立山田中学校では、ふれあい事業の補助を受け、昨年度からYAMACHU

SDGsの取組を進めております。10年後の未来を支える人づくりを目指し、たくさんの方のご協力の下、活動を進めています。持続可能な社会を実現するために、一人一人が自覚をもって行動できるように取り組んでいます。

PTA活動を通じて、たくさんの方々と関わりをもっていくことは、貴重な経験となっていきます。来年度以降、また以前のように、たくさんの方々と交流、研修できることを願っております。



# メモリアルページ

今年度をもってPTA活動の区切り(閉校)となる学校があります。

- ①創立年月日
- ②児童・生徒数
- ③PTA会長名
- ④校歌

## 北秋田市立 阿仁合小学校



- ①昭和53年4月1日  
②29名 ③栗谷 大三

作詞 佐藤 宇平  
補作 校歌制定委員会  
作曲 後藤 憲一郎

- 1 流れはつきぬ 阿仁川の水のせせらぎ 歌と聞き 小鳥さえずる この丘に 友と手をとり 助け合い 美いで築く 阿仁合小学校
- 2 藤森山の 嶺遠く 西にそびえる 姫が歴 朝な夕なに 仰ぎ見て 心と体 きたえつつ たゆまず励む 阿仁合小学校
- 3 歴史は長い 阿仁の里 自然の恵み 育みて 捯く未来の 夢多く 扇と肩とを 組みながら 正しく伸びる 阿仁合小学校

## 北秋田市立 大阿仁小学校



- ①平成7年4月1日  
②16名 ③高関 喜代正

共同作詞 渡 正俊、佐々木 茂、庄司 乙彦  
作曲 佐々木 貞治

- 一 白雲なびく 森吉の 岳風すさぶ 学び舎に 若きこだまの 返りくる ここに鍛えて 育ちゆく ああうるわしき わが校よ
- 二 潮の音ゆかし 大又の 飛沫に映える 虹の彩 豊かなる智恵 求めつつ ここに磨きて 育ちゆく ああうるわしき わが校よ
- 三 ひらけゆく故郷 大阿仁の 先人しのぶ 笛太鼓 騰空を 翔けるように 希みかかげて 育ちゆく ああうるわしき わが校よ

## 藤里町立 藤里小学校



- ①昭和47年4月1日  
②90名 ③淡路 和人

作詞 石岡 順吉  
作曲 石岡 邦治

みどりの風もさわやかに  
藤琴川の澄むところ  
偉容を誇る学びやに  
力をあわせ進もうよ  
われら藤里のむつむる子ら

名駒が嶺のすがしさを  
あしたに夕に伸びつつ  
心をみがき身をきたえ  
のぞみも高くはげもうよ  
われら藤里の伸びる子ら

## 北秋田市立 阿仁中学校



- ①平成3年4月1日  
②22名 ③松橋 盛昭

作詞 大友 康二  
作曲 管原 良吉

- 一 風あふる 阿仁の大地に 夢薰る 友よ あしたよ 若き希望の 熱く燃え 三年の学び 四季を彩る おお ふるさと 阿仁 わが青春 ふるさとに われら生き 未来へ いのち輝く
- 二 風詩う 阿仁の流れに 愛豊か 友よ 季節よ 高き理想の はばたきて 三年の集い 永遠にきらめく おお ふるさと 阿仁 わが賛歌 ふるさとに われら生き 世界へ 世界へ いのち輝く

## 藤里町立 藤里中学校



- ①昭和31年4月1日  
②54名 ③淡路 昌彦

作詞 尾山 篤二郎  
作曲 石井 敬

- 一 秋田県の山本に 祖先の植えし杉檜 そびゆる空に駒が岳 雪消のひだもきらきらと あつきの親和を守りては 蔚然たる山の精 朝夕仰ぐ北の空
- 二 津軽秋田の境なす 分水嶺の二流 春はここひく東川 あゆの船毛は西の川 一つになれる藤の里
- 三 四季交々に移り行く ぶなもさわらも雲高く 世界の平和祈り居る 自然の姿そのままに 手をたづさせて学び往く われら藤里中学生

## 男鹿市立 潟西中学校



- ①昭和30年4月1日  
②47名 ③加藤 明人

作詞 山田 千之  
作曲 小林 稔吉

- うつりゆく 世々のすがたを みちびいて みどり松かせ 八卦台 若人われらは まなびやに 風雪耐える理想をば いまあたらしく 告げて立つ あこがれに 郷土のゆくては かがやいて 光たなびく 八郎湯 若人われらは まなびやに さきがけはげむ 自立こそ おおたのもしく つかわん 太平の 横はあかるく はばたいて 招き伝えし 生きる道 若人われらは まなびやに 噴き揚ぐちから のぞみをば いざ美しく 彩らん そびえ立ちたり そびえ立ちたり 潟西中学校 あわれら

## 秋田市立 太平中学校



- ①昭和22年4月1日  
②3名 ③鎌田 誠

作詞 竹内 瑛二郎  
作曲 大山 会三郎

- 一 太平の 姿かがやき 風かおる 道ゆく牛も 大地をふまた たくましく われらこの 郷土に育ち 風雪にたてて やさしくすなお 英知のひとみも 清らかに 日に日に新た わが母校
- 二 朝明けの 谷を流れて 一筋に 海へと続く 太平川は たゆみなく われらこの ほどりに学び みずからをきたえ 明るく強く 日本の栄えを この肩に 伸びゆく太平 わが母校

## 秋田市立 豊岩中学校



- ①昭和22年5月1日  
②6名 ③齋藤 和治

作詞 中川 正男  
作曲 仙葉 隆雄  
編曲 林 欣次郎

- 一 千町田の 緑の彼方 太平は われにはえむ 理想はるけく わが夢は 高嶺の如し あゝかくて 今日も我等はつどいて学ぶ
- 二 朝夕の 光すがしく 音もなく流るゝ雄物 雲うつる白華の館に 過去を思う 静けさ あゝかくて 今日も我等はつどいて学ぶ
- 三 豊岩の 未来を担う 龍垣は 売くとけまじ 三年の 道は明るく わが宝み 胸にあふるゝ あゝかくて 今日も我等はつどいて学ぶ

## 秋田市立 下浜中学校



- ①昭和22年4月1日  
②21名 ③佐藤 悠

作詞 竹内 �瑛二郎  
作曲 佐藤 二郎

- 一 松の林に 風は高鳴り 砂丘のかなた 島海の 雄姿をおおぎ つどうわれら わきあがる希望をここに 新しい知徳をみがき 喜び励む 学びの日日に 輝く下浜中学校
- 二 男鹿の島山 遠く速なり はてなくづくはるの とどろく歌に 育つわれら ふるさとの栄えをない すこやかに ひどみもきよく 肩組み進む 自主精神に 伸びゆく下浜中学校

# 『児童・生徒・PTA総合補償制度』について

## 2020年度より追加された補償項目



※学校管理下・PTA活動外等の起因により事故対象にならない場合があります。

## 保険金の手続き方法



## 補償項目・補償内容について

ケ ガ  の 補 償	補 償 項 目	保 険 金 額	
		①学校管理下外 (児童・生徒) ※注1	②PTA活動中 (児童・生徒、PTA会員)
死亡保険金		100万円	150万円
後遺障害保険金 (障害の程度により)		4万円～100万円	6万円～150万円
入院保険金日額 (180日限度)		1,200円	1,800円
手術保険金	入院中 12,000円／入院中以外 6,000円	入院中 18,000円／入院中以外 9,000円	
通院保険金日額 (90日限度)	800円	1,000円	

※注1) 入院保険金、手術保険金、通院保険金は、事故の日からその日を含めて7日目以降においてなお、入院または通院した場合に限り、入院または通院を開始した日から保険金をお支払いします。

賠 償  事 故  の 補 償	補 償 項 目	保険金額 (お支払い限度額)	
		対人	1名: 3,000万円／1事故: 3億円
	PTA活動の遂行に伴う賠償責任 (自己負担額 5,000円)	対物	1事故: 200万円
	保管物の損壊等による賠償責任 (自己負担額 5,000円)	対物	1事故: 10万円 保険期間中: 500万円
	提供飲食物危険保険 (自己負担額 5,000円)	対人・対物	1名・1事故/PTA活動の遂行に伴う損害賠償責任の対人・対物補償と同額 (注) 保険期間中の限度額については、対人・対物それぞれの1事故あたりの 限度額が適用されます。
	児童・生徒の賠償責任 (自己負担額 0円)	対人・対物 共通	1事故: 1億円
	法律相談・クレーム対応費用 (自己負担額 0円)		1事故: 100万円 保険期間中: 1億円
	付帯サービス		弁護士相談・紹介サービス

## 令和5年度 PTA研究大会のお知らせ

### ■第71回日本PTA全国研究大会 広島大会

大会スローガン：

変化の時代に向け、PTA自身が学びの変革を！  
～見つけ 考え かわろうや ぶち楽しいで！！～  
広島から全国へ

開催日：令和5年8月25日（金）～26日（土）  
会 場：広島県立総合体育館（広島グリーンアリーナ）ほか

### ■第55回日本PTA東北ブロック研究大会 富谷黒川大会

大会スローガン：

東北一心 新たな時代へ 一期一笑  
～未来を切り開け！持続可能な地域づくり・PTAづくり～

開催日：令和5年10月14日（土）～15日（日）  
会 場：富谷スポーツセンター ほか

### ■第49回秋田県PTA研究大会 能代山本大会

開催日：令和5年10月29日（日）  
会 場：能代市文化会館

※各種大会において新型コロナウイルス感染症等の状況により、変更及び中止の場合があります。

令和5年度

## 「みんなで育てる 秋田ふれあい事業」 の募集について

令和5年度もPTA行事、PTA内の活動グループが主催する子どもを含めた事業に、予算内で上限5万円の助成を行います。応募要項は、秋田県PTA連合会ホームページのお知らせをご覧下さい。



## PTA安全互助事業

PTAの保険は、学校管理下外のケガや登下校中のケガ、PTA行事でのケガ、賠償事故の補償をしています。  
令和5年度の補償内容・加入要項を3月に各学校へお送りいたします。新年度のご加入をよろしくお願いいたします。



## 秋田県PTA連合会補償制度取扱会社



AIG損保

AIG損害保険株式会社 北海道・東北地域事業本部 秋田支店

〒010-0001 秋田市中通2-3-8 秋田アトリオンビル10F  
TEL: 018-801-2010 FAX: 018-801-2022 午前9時～午後5時（土・日・祝日・年末年始を除く）